

(別紙9)

新潟県における効果的な捕獲に係る技術開発評価報告
(効果的捕獲促進事業)

1 対象指定管理鳥獣の種類及び技術名

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
技術名	積雪地帯におけるシャープシューティング
実施体制	新潟県、認定鳥獣捕獲事業者、関係事業者
事業費	9,999,550円

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の目的・目標、実施状況、効果、課題等

指定管理鳥獣捕獲等事業では、個体数を減少させるため、生息密度が高い又は生息域が拡大している地域において捕獲を実施している。管理計画の捕獲目標頭数、各捕獲事業及び狩猟の捕獲実績等を考慮して、令和7年度は100頭を捕獲目標とした。

小雪の年は捕獲実績が低調となりやすい等の課題がある。

注：捕獲等事業によって目指す地域の状況や、軽減したい被害に関する目標、そのために必要な密度低減の考え方や捕獲数、捕獲の実施状況・効果・課題等を記載すること。

3 開発技術の目的・必要性・具体的な内容・効果等

県内でニホンジカの生息密度が高い地域は積雪地帯となっており、ニホンジカ捕獲等事業の実施にあたり、降雪の影響を大きく受けている。そこで、降雪地域特有の技術の開発を目的として、ニホンジカが牧草地に類似した採餌空間としてスキー場を利用していることが判明したことから、冬季において、スキー場のゲレンデ等で誘引によるシャープシューティングを行い、積雪地帯における個体数管理のためのモデル技術を開発する。降雪地域における効果的な捕獲方法の開発やこれによって得られた知見をニホンジカ捕獲事業等に活用することで本県の捕獲効率の向上が期待される。

注1：開発技術の具体的な内容については、開発方法、開発体制、技術の特徴、開発場所、開発日程、導入効果、成果目標、有効性、普及性、既存の技術との比較など分かりやすく記述すること。

注2：開発する技術の仕組み等が分かる資料を添付すること。

注3：2を踏まえて技術開発の目的・必要性を記載するとともに、想定される効果等記載すること。

注4：事業終了後の評価報告においては注1～3について実施した内容・結果を記載すること。

4 技術の効果の検証・評価結果

本事業により豪雪地帯では降雪中のニホンジカの生息地が安定しないことが分かったため、個体数管理に向けては積雪期以外における効果的な捕獲手法の確立が必要。

注：3を踏まえ、実施結果の確認方法や目的・目標に対する開発技術の効果を図るための指標（被害指標や密度指標等）やその収集方法、評価の方法等について記入すること（事業終了後の評価報告においては、その評価結果を具体的に記入すること。）。

5 技術の活用・普及方法、その他

事業結果を関係機関と共有し、今後の個体数管理に向けて捕獲時期や手法の検討材料とし、関係機関で連携して効果的な捕獲を実施していく。

注1：技術開発に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。